

2022 年度（令和 4 年度）

事業報告

一般社団法人京都市ひとり親家庭福祉連合会

一般社団法人京都市ひとり親家庭福祉連合会

一般社団法人京都市ひとり親家庭福祉連合会 2022年度（令和4年度）事業報告（年間）

【法人概要】

1. 設立の経緯

当法人は、昭和25年、世帯主を戦争で失った母子家庭の母が集まり、戦後の混乱期における母子家庭の地位や権利・福祉の向上を目的として活動を開始した団体が母体となっている。昭和57年、京都市在住の母子家庭の母を中心とする当事者による福祉団体として、社団法人としての法人格を取得。その後、公益法人制度改革に伴い、平成25年8月に一般社団法人へ移行した。令和3年2月には、父子家庭を含めた、ひとり親家庭福祉の向上に寄与するため「一般社団法人京都市ひとり親家庭福祉連合会」へと法人名称変更を行った。

2. ひとり親家庭支援

連合会では、昭和59年2月「京都市母子福祉センター米岡荘」の運営管理を受託したことを皮切りに、平成16年4月京都市母子家庭等就業・自立支援センター事業を開始。平成21年4月現在地の北山ふれあいセンターに「京都市母子福祉センター」移転。平成24年4月「京都市ひとり親家庭支援センター」に名称変更。京都市のひとり親家庭支援の中核施設として管理・運営に携わっている。

3. 児童館事業及び児童福祉事業

児童館事業については、伏見住吉地域の住民によって運営されていた「京都市住吉児童館」の管理・運営事業を平成7年に委譲され、平成21年4月、京都市左京区北山ふれあいセンター新築に伴い、「京都市母子福祉センター（現京都市ひとり親家庭支援センター）」に併設される形で「京都市葵児童館」が新設され、2館体制となる。全国でもめずらしい母子福祉センターと児童福祉施設の合築施設として、連合会が運営・管理を担う。平成22年には、伏見下鳥羽地区の民設民営児童館「下鳥羽児童館」が法人傘下に入り、続いて令和3年度より、岩倉南児童館の指定管理事業者として選定され、4児童館体制となった。また、平成22年より、旧京都市母子福祉センター米岡荘1階において、乳幼児親子の交流施設「京都市子育て支援活動いきいきセンターつどいの広場」を委託事業として運営しており、ひとり親家庭福祉及び児童福祉分野において積極的な事業展開を行っている。

○法人基本理念

私たちは、ひとり親家庭をはじめとして、すべての子どもと親の幸せを願い、家族のかたちにとらわれることなく「その人らしく、豊かで充実した生き方」ができる社会の実現を目指します。一人ひとりの暮らしが安心と希望に支えられ、いきいきと充実した毎日が送れるよう全力で支援します。

○基本方針

1. ひとり親家庭福祉及び児童福祉の推進

ひとり親家庭等が安心して自立するための支援充実を図り、貧困の連鎖が解消され、児童の健やかな育成が実現できる社会づくりに参画し、熱意と英知を尽くし、ひとり親

家庭福祉及び児童福祉の向上及び地域福祉の促進に取り組みます。

2. 人権と本人の意思の尊重

当事者の人権と個人の意思を尊重し、心身ともに健やかな生活を形成し、その有する能力に応じて自立した日常生活を地域社会において営むことができるよう、常に当事者に寄り添い、誠実であたたかい支援を実践します。

3. 利用者本位の福祉サービスの提供

事業運営にあたっては、利用者やそのご家族との信頼を構築し、職員一人ひとりが利用者の希望や思いを真摯に受け止め、常に福祉サービスの質の向上に努め、自己研鑽と実践への向上心をもって事業に取り組みます。

4. 地域社会への貢献

ひとり親家庭福祉連合会会員活動及び施設事業において、地域住民や関係団体との連携・交流に努め、信頼される施設として、蓄積した経験知識や各種スキルを地域に還元し、地域社会の発展と福祉の向上に積極的に寄与・貢献します。

【2022 年度事業活動報告トピック】

○コロナ禍における活動

新型コロナウイルス感染症の世界規模の発生は、急激な経済的・社会的混乱を経て、発生から3年以上経過した令和5年5月8日現在、ようやく季節性インフルエンザと同じ5類（感染症法）に引き下げられた。ひとり親家庭にとって、コロナ禍で傷ついた経済生活を元に戻すことは容易ではなく、収入の低下や失業、就職難という現象が長期化したことで、従来から経済的困窮度の高かったひとり親家庭の生活を益々苦しめる要因となっている。

コロナ禍においては、当事者団体として、何ができるかにポイントを絞り、「孤立を防ぐ」「当事者同士が互いに励まし合う」「子どもの幸せを最優先に考え行動」「必要な情報を伝え、共有する」といった活動の基本優先事項をしっかりと確認し、関係各団体や民間企業との連携を強めた。食品の寄付や無償提供によるフードドライブにより備蓄した食品を活用し、連合会会員やゆめあす利用者、京都市在住のひとり親家庭に対し、フードパントリーを実施した。コロナ禍の活動では、何よりも人と人とのつながりを絶やさないという思いで各会員が活動に取り組むことができた。また、新入生を対象にしたランドセルプレゼントの実施を計画し、民間企業の協力を得て実現した。今後も行動規制がなくなることで、コロナ前の活動以上に活性化を図りたい。

○支援団体との連携・協力

コロナ渦の中で、困窮・孤立化するひとり親家庭への支援を呼びかけ、各種支援団体様・企業様との連携を深め、多くの支援をいただくことができた。株式会社パソナ様、りそな銀行京都支店様、日本管財株式会社様、京都キワニスクラブ様からは多くの食料提供を受け、フードパントリーで活用した。また、日本ケイテム様からは、小学校入学祝いとしてランドセルのご寄贈を受け、神戸楽友協会様からは、京都コンサートホールにおける

著名音楽家のコンサートご招待、洛西ロータリークラブ様からもコンサートご招待とご寄付をいただくなど、各種団体・企業様からのご支援・ご協力により様々な支援・交流活動を行うことができました。また、ウィングス京都において、居場所づくり（ピアサポート）を目的として2回「ママカフェ」枠にてひとり親家庭の女性のためのイベントに運営参加。コロナ禍の影響で孤独・孤立からの不安や困難・課題を抱える女性に寄り添い社会とのつながりを回復することを目的として、不安を抱える女性に寄り添った事業を実施している。※詳細は以下、活動報告に記載。

○ひとり親家庭福祉事業・児童福祉事業の展開

「ひとり親家庭福祉」及び「児童福祉」にかかる事業の指定管理・委託事業を事業運営の2本柱として実施した。京都市ひとり親家庭支援センター、住吉、葵、下鳥羽、岩倉南の児童館4館の運営、つどいの広場「ほっこりはあと出町」の運営を通して、地域に根ざしたきめ細やかな支援を行い、ひとり親家庭への支援及び子どもの権利と安全を守り、その自立と成長を支援する活動に力を注いだ。事業実施にあたっては、京都市、地域の関係各団体をはじめとする機関との連携を深め、地域の住民の皆様との相互理解に基づく良好な関係の構築を実現し、地域の発展に貢献する事業運営を実施。

【令和4年度 法人組織運営体制に関する重点課題】

令和2年度に策定した「組織改革案」を中長期計画のベースとして、法人各種規定の整備、会計管理体制の見直し、業務マニュアル等の作成への取り組み、内部ガバナンス体制の見直し等に着手した。定期的開催の委員会形式により改革議論を深め、法人の持つ課題を明確化し、各種規程の整備及びPDCAサイクルによる改善策実行～見直しを推進した。

■重点課題

1. 父子家庭へのはたらきかけと新規会員獲得に向けての対策を強化。

「京都市ひとり親家庭福祉連合会」へと名称変更した（令和3年2月1日登記完了）ことから、父子家庭への働き掛けを強めていくため、ゆめあすママカフェによる「パパカフェ」を開催。父子家庭当事者の大学教員等によるカウンセリング・グループにより、交流会を開催し5名の父子家庭が参加。

2. デジタル社会における広報や情報発信のありかたを検討。

コロナ禍における会員活動が自粛している中、ネット環境を駆使しての情報共有、講座や交流活動が求められているため、「LINE」による情報発信や申し込み体制の導入、グーグルの申し込みフォーマットを取り入れた。

3. 地域との連携を強めていく

福祉団体の活力を地域社会において活かすために何が必要か、福祉団体として活動するためにどのような形がふさわしいのかを引き続き検討し、地域の各団体との様々なフェイスにおける連携にアプローチした。「京都市市民活動総合センター」へのママカフェ講師派遣依頼、「京都洛西ロータリークラブ」との広報等の協力関係、「神戸楽友協会」とのコンサート参加者受付・取りまとめ等における連携。京都キワニスクラブ「子ども料理教室」

への参加者とりまとめと広報協力等々に取り組んだ。

4. 児童館を取り巻く環境の変化を着実に捉え、マネジメント力を強化。

児童館運営にかかる問題点を明確にし、保護者の意見や意向を読み取るよう、職員間で情報共有を励行した。地域住民・諸団体、学校との関わりについても、各機関との情報共有及びネットワーク作りを強化し、懇談会や相互訪問の機会を増やし、より地域に根ざした児童館運営に資するよう取り組んだ。

5. リスクマネジメントに基づくコンプライアンス対策の強化。

コンプライアンス強化を団体の使命として取り組んだ。法令の遵守と社会的評価のアップを目指して、不祥事の防止や潜在的リスクの掘り起こしを進め、執行体制とガバナンスの強化を図った。「稟議決裁規定」「私有車業務使用規定」「児童館就業規則」等の諸規定の全面改定及び職員育成のための「児童館職員全員ヒアリング実施」に取り組み、各職員の現状と課題についての把握を通じて一定の成果を得ることができた。次の課題である人事考課体制構築への基礎資料とすることとしたい。

6. 連合会ホームページの刷新

現行ホームページが置かれているレンタルサーバーのセキュリティアップに伴うシステム変更に対応できず、更新が自由にできない状態となっていたため全面リニューアルの制作に入り、ほぼ9割の段階まで構築。5月中完成予定。制作方針は、「わかりやすさを追求し、従来にありがちなデザインを一新し、新規会員の開拓やひとり親家庭福祉に関する情報提供機能の充実を目指す」。

7. その他

他に、指定管理事業及び委託事業に関する事業規模が拡大し、京都市ひとり親家庭支援センター及び住吉児童館、葵児童館、下鳥羽児童館、つどいの広場事業など、法人としての共通理念やガバナンスの構築、コンプライアンスに対する基本姿勢の充実、統一的な行動指針、各事業の利点を活かした複合的な事業計画の策定に取り組んだ。同時に中長期の計画も明確にし、時代の変化に即応できる効率的な法人運営体制の整備を進めている。

1 各部会活動

(1) 法人事業

① お手玉販売

会の事業費収入に資するとともに、会員が寄り集まりの、お手玉を手作りするなかで交流を深めることを目的とする。

② ウィングス京都イベント「つながるスペース（ひとり親女性対象）」運営参画。

◎日時 11月5日（土） 14：00～16：00

◎場所 ウィングス京都2階

◎テーマ 出張 mamacafe ひとり親女性のためのマネーセミナー

◎目的 今後のライフプランの見直しや就労への意識向上のため、関心の高いマネーセミナーとして実施

◎共催 京都市／企画・運営 公益財団法人京都市男女共同参画推進協会

参加無料 申込29名 参加者19名

③第3回 つながるスペース『ひとり親女性のためのお悩み相談室』運営参画

◎日時 12月11日(日) 13:00-15:00

◎場所 ウィングス京都 2F

◎運営協力 京都市ひとり親家庭支援センターゆめあす
社会福祉法人 宏量福祉会 野菊荘こもれび
京都市ファミリーサポートセンター

◎参加者 応募者24名 定員20名 実参加者18名

※ゆめあす 就業・自立支援事業報告「mama-cafe」にて詳細を報告。

(2) 母子部事業

① 定例部会(母子部会)の開催

母子部長・副部長を中心に有志が参加する会議を、毎月第2日曜日(変更あり)に開催。

② 交流会 母子・寡婦交流事業「つまみ細工教室」

日常生活支援の支援員登録をしている方で、つまみ細工教室も個人で教室を主催されている方を招いて、寡婦を中心に、母子も参加して5月22日(日)と10月30日(日)5月9名、6月10名、10月5名の参加。少人数で交流を図りながら完成品を持ちよる。その後、山科区ひとり親家庭福祉会単独でも実施した。

③ 『お茶のミュージアム茶づな』見学と体験会/母子部・寡婦部交流のための共催事業

母子と寡婦の交流を目的として開催

◎日時 令和4年6月26日(日)

◎会場 『お茶のミュージアム茶づな』 京阪宇治駅徒歩4分

◎ねらい コロナ禍でおうち時間が増えている中、外出を控えている方も多きことを踏まえて母子だけでなく寡婦とも楽しく学ぶ体験や見学を通し交流を図る。

◎内容 全体での記念写真ののち、ミュージアムでは、学芸員による説明を受けながら見学をし、各人希望の体験会に参加し、施設内の自然探索をするなどして楽しんだ。

◎申込者 母8・子4・寡婦17 計29名

◎参加者 母7・子3・寡婦12 計22名

④ 中高生のためのプログラミング教室【初級】

◎日時 令和4年7月23日、30日 8月6日、20日 27日
10:30-12:00

◎参加者 延べ44名(うち大人2名が就業に必要なため参加)

◎会場 ゆめあす2F技能習得室

※講座に使う資料は予めUSBメモリーに入れて配布し、講座内で作ったファイルもUSBメモリー内に保存してもらった。講師の説明後にファイルを作成するという形で進行。パソコンのない方には、ゆめあすのパソコンを貸出しという形を取って対応した。

⑤ 中・高・大学生のためのプログラミング教室【中級】

◎日時 令和4年12月17日 令和5年1月7日、14日、21日

◎参加者 延べ23名(うち就業に必要なため大人2名参加)

◎会場 ゆめあす2F技能習得室

⑥『磁石と電気のおもしろサイエンス』磁石で実験！電動自動車を作ろう（山科区主催）

◎日時 令和4年8月7日（日）

◎場所 山科青少年活動センター

◎内容 夏休みの宿題や親子の思い出作りとして講師の工夫によって企画実施

◎申込者 大人21・子ども28 計49名

◎参加者 大人18・子ども25 計43名

⑦ 秋まつりと食糧支援フードパントリー

コロナ禍による収入減など生活困窮に直面しているひとり親家庭が多いため、令和4年度厚労省補助事業『ひとり親家庭等の子どもの食糧支援事業』の助成金を申請し、食糧支援を行う。交流する機会が減ったため、ひとり親家庭の孤立防止として秋まつりで楽しいひと時を過ごしてもらおう。京都市内在住のひとり親家庭40組にフードパントリーを実施した。

◎日時 令和4年9月18日（日）

午前の部10:30-12:30 午後の部13:30-15:30

◎場所 ほっこりはあと出町（旧京都市母子福祉センター）

◎参加者 午前の部46名（大人19名 子ども27名）

午後の部51名（大人20名 子ども31名）

※欠席 親子1組（大人1名子ども1名）

⑧ 食糧支援フードパントリーA

◎日時 令和4年11月27日（日）14:30-

◎場所 ハートピア京都（福祉大会特別企画）

◎参加者 親子30組（大人30名 子ども47名）

※ フードパントリーは子30名に対して行った

⑨ 食糧支援フードパントリーB

◎日時 令和4年12月24、25、26日 10:00-18:00

◎場所 ゆめあす

◎参加者 親子70組

※フードパントリーは子70名に対して行った

⑩ 親子でクリスマス会

昨年度に続きコロナ禍ではあったが、感染症対策をしっかりと行った上で、孤立を防止する意味を込めて定員制限の上、「親子でクリスマス」を開催した。

◎日時 令和4年12月18日（日）

◎場所 京都市ひとり親家庭支援センター 児童館遊戯室 図書コーナー

◎内容 前半・・・図書コーナーで紙皿を使った『クリスマスリースづくり』

後半・・・ミュージシャンによるクリスマスソング・アニメソングの演奏

大谷大学児童文化研究会による手遊び・ペープサート・人形劇

最後は、学生さん扮するサンタさんによる連合会からのお菓子と学生さん手作りのプレゼントを受け取り、楽しいクリスマス会となった。

◎申込者 母子10組 22名

◎参加者 母子10組 22名

⑪ バスツアー

コロナ禍で中止していた日帰りバス旅行を座席、参加人数を考慮し開催した。

◎日時 令和5年3月19日(日)

◎場所 滋賀県立琵琶湖博物館とかねふくめんたいパーク琵琶湖

◎内容 滋賀県立琵琶湖博物館の見学、昼食のあとめんたいパーク琵琶湖で様々なゲームコーナーを楽しみ、試食、お土産購入

◎申込者 母子17組 37名

◎参加者 母子14組 31名

【各支部 主催事業（母子・寡婦）】

①山科区主催「おいも掘り体験会」（共同募金助成事業）

◎日時 令和4年10月31日(日)

◎場所 山科区篤志家敷地

◎参加者 18名（親子4組8名 寡婦6名）LINEによる募集で新規申込者募集抽選

②中京区主催「柿狩り」

◎日時 令和4年11月13日(日)

◎場所 千弥農園

◎参加者 20名（親子4組8名 寡婦8名）LINEによる募集で新規申込者募集抽選

③伏見区・山科区共催『ボルダリング体験教室』

◎日時 令和5年2月12日(日)

◎場所 京都ボルダリングパークロシェ桃山

◎内容 ボルダリング会場を貸切りにして、安全面を配慮し参加人数も制限し、初心者でも十分楽しめる体験教室として実施

◎申込者 親子14組26名

◎参加者 親子10組21名

④西京区主催『クリスマス会』

◎日時 12月11日(日) 10:00 - 15:00

◎場所 京都市交流促進まちづくりプラザ多目的室

◎内容 「西京区 クリスマス会」／主催 京都市ひとり親家庭福祉連合会 西京支部
コロナ禍で閉塞しがちな地域の人々との交流を通じて、人と人の絆の大切さを再認識する機会とする。

◎参加者 ひとり親家庭の方々や主宰する学習会「ゆう」の参加者、ボランティア、保護者、地域の方々など。当日の参加者数／計20名／大人13名・子ども7名

◎目的 クリスマス・ケーキ作りとヤミカレーを作って交流を図る。参加者はカレーの材料を一つ持ち寄り（ジャガイモ、にんじん、など）。みんなで一緒にカレー作りとケーキのデコレーションを行う。カレーやケーキを食べながらほのぼのとした交流を実現する。

午後は地域の子どもたちを中心に、遊び隊（ボランティア団体）による遊びで楽しんだ。

⑤西京区主催『大人のためのプログラミング教室』①

ひとり親家庭の親を対象として、就職・転職・現職でのスキルアップを目的として実施時間帯も、仕事終わりも配慮して夜設定にして行った。実質1名が、就職につながった報告も受け、今後も継続事業として続けていく必要性を実感した。

◎日時 令和4年11月4.18.25日 12月2.9日 18:30-20:00

※1回90分の連続5回講座

◎場所 京都市交流促進まちづくりプラザ多目的室

◎参加者 延べ17人

⑥西京区主催『大人のためのプログラミング教室』②

◎日時 令和5年2月10.17.24日 3月10.17日 18:30-20:00

※1回90分の連続5回講座

◎場所 京都市交流促進まちづくりプラザ多目的室

◎参加者 延べ20名

⑦ 広報誌『POSITIVE』の発行

母子部会員相互の交流、情報の提供などを目的にニュースレター『POSITIVE』を4月・7月・10月／1月に発行（各1700部）。郵送で母子部会員に配布するとともに、関係者・機関に配布、配架の依頼を行なった。

（3）学習会・居場所作り事業

⑧西京区学習支援会「ゆう」※のべ32回の開催となった。

◎日時 毎週水曜日午後6時半～8時半

◎会場 京都市交流会館 ガタゴト

◎参加子ども総数 75名

・ボランティアの指導者と共に学習、交流

（4）会報「花ごよみ」の発行

連合会会員全体に向けての広報機関誌として、「花ごよみ」を寡婦部が主体になって編集発行し、会員及び関係機関等に配布した。（令和2年5月、2000部発行）

2 各種研修会活動への参加

（1）全国母子寡婦福祉研修大会及び近畿ブロック大会

全国の母子寡婦福祉団体が一同に会し、我が国の母子寡婦福祉の現状と今後の課題等について研修することを目的に開催。

◎日時 令和4年11月5日（土）

◎場所 滋賀県ピアザ淡海 ピアザホール

◎内容 式典及び主催団体である滋賀県のぞみ会による『多機能型シェアハウス』の取組みについての発表及びテレビ番組で紹介された際の映像の紹介等。

（2）近畿ブロック母子部長会議

近畿地区の母子寡婦福祉団体の母子部の役員が一同に会し、現在の母子福祉の抱える課題、今後の展望などを話し合い、幅広い母子福祉活動について検討、活動することを目

的に開催している。

日 時 令和4年7月3日(日)・令和5年1月29日(日) 各午後1時～3時
*1/29は、荒天により中止(大雪の影響による)

(3) 全国母子寡婦指導者研修会及び母子部長研修会

全国の母子寡婦福祉団体の指導者が、一同に会し、母子寡婦福祉団体のあり方や、会の運営、母子寡婦福祉について研鑽を深めることを目的に開催。

◎日 時 令和4年3月11日(土)～12日(日) 13時半～
◎会 場 品川区立総合区民会館(東京都品川区)
◎参加者 横内会長・中川母子部長

3 他団体・行政からの支援事業や他団体事業への参加

(1) 医療法人創健会西村診療所様 社会奉仕活動事業

平成17年度より毎年、「母子家庭及び寡婦の健康支援のための無料人間ドッグ」を実施していただき、今年も25名の母子と寡婦が受診した。

◎日時 令和4年4月10日(日) 8時00分～12時頃
◎会場 医療法人創健会西村診療所(ホテルグランヴィア京都3階)
◎内容 「カスタムF女性用」コース
◎受信者 定員25名 当日2名キャンセル 23名受診

(2) やんちゃフェスタ2022(第2部)

◎予定日時 令和4年11月 会場 みやこメッセ
*コロナ感染症予防対策により中止

京都市及び京都市児童館学童連盟主催の「やんちゃフェスタ」第2部への出展。母子部会員、理事がスタッフとして参加する。

(3) 北山ふれあいセンターまつり *コロナ感染症予防対策により中止

京都総合福祉協会との共同企画により、北山ふれあいセンター全域で開催。地域住民、地域各種団体との交流及び事業理解を深める目的で実施。参加者約500名

日時 令和4年11月 午前10時～午後3時

後援 京都市社会福祉協議会・後援会

内容 ゆめあすのおにぎりやさん、ゲーム、理事の手づくり小物などを出展

(4) 演奏会等ご招待

①神戸楽友協会『ザ・協奏曲2』ご招待(神戸楽友協会)
神戸楽友協会から『ザ・協奏曲2』の無料ご招待をいただいた
全席指定席で入場料5000円

◎日時 令和4年10月8日 14:00 -

◎参加者 76名(大人49名・子ども27名)

②京都洛西ロータリークラブ

創立40周年記念チャリティーコンサート『未来へのハーモニー』ご招待
洛西ロータリークラブ主催のチャリティーコンサートをご招待いただいた。
チャリティーで集まった寄付の一部をご寄付いただいた。(10万円)

※ご寄付はひとり親家庭支援で活用し、イベントではご協力いただく予定。

(5) ランドセル・プレゼント企画

『ランドセル贈呈式+写真撮影会』（株式会社 日本ケイテム）

株式会社日本ケイテム様よりランドセル10個をご寄贈いただいた。

連合会からは、サーモスの水筒をプレゼントした。寄贈式の後には、カメラマンによる写真撮影会を行った。（待ち時間を活用し交流会を兼ねてお弁当を提供）

◎日時 令和5年3月12日（土）11：30－贈呈式 12：00 - 写真撮影会

◎場所 葵児童館遊戯室

◎参加費 無料

◎対象 京都市内在住のひとり親家庭の新一年生10名

◎応募 27名

◎参加 10名 （当日、仕事のため3名が欠席）

(6) 株式会社千總 着物寄贈式

◎日時 令和5年3月29日（水）17時～

◎場所 株式会社千總本店

◎京都市への寄贈品内訳

振袖袴一式2セット 小紋袴一式3セット 計5セット

4 京都市から指定を受けて運営する施設（京都市指定管理者指定事業）

(1) 京都市ひとり親家庭支援センターの管理・運営（別紙 事業報告・会計決算報告）

(2) 京都市住吉児童館、葵児童館、岩倉南児童館の管理・運営（別紙 事業報告・会計決算報告）※下鳥羽児童館は京都市委託事業。

5 京都市からの受託事業

(1) 京都市ひとり親家庭支援センターにおける連合会事業（ひとり親家庭日常生活支援）

(2) 着物貸出事業（+スーツ貸出事業）

昭和63年以来、株式会社千總様より京都市へ晴れ着のご寄贈があり、当連合会が事業委託を受け、母子及び寡婦家庭を対象に冠婚葬祭、成人式、七五三等に貸出事業を展開している。原則福祉事務所経由で利用者が来所。貸出料金大人用5,000円、子ども用1,500円。スーツは京都南ロータリークラブ様よりご寄贈いただいたものを、就職面接などに無料で貸出ししている。借りた方がクリーニングし返却していただくこととしている。

・きもの貸出件数

年度 / 種類	振袖 (袴含む)	留袖	友禅等	七五三 7才用	七五三 3才用	七五三 5才用	十三詣	合計
30	23	1	8	10	6	4	1	53
31	26	3	5	2	6	12	14	68
2	15	3	10	9	5	6	2	50
3	23	2	8	6	3	9	0	51
4	16	2	2	5	6	7	3	41

・スーツ貸出し数

年度 ／ 種類	ブラック 7号	ブラック 9 号	ブラック 13号	グレー 9号	グレー 11 号	服 合 計	靴 23cm	靴 24 c m	靴 24.5 cm	靴	靴 合計
3	0	1	0	3	0	3	0	1	0	1	2
4	1	1	1	0	1	4	2	1	0	2	3

(3) つどいの広場（京都市子育て支援活動いきいきセンター）「ほっこりはあと出町」

当施設は平成22年1月18日開設。乳幼児を持つ親とその子どもが気軽に集い、交流を図ると共に、育児相談などを行う場を提供し、地域の子育て支援活動を支援することにより、親の負担感の緩和を図り、安心して子育てができる環境の整備と充実を図ることを目的としている。

令和4年度の来所数については、前年度に引き続きコロナ感染防止対策として、人数制限及び予約制とした影響から、通常開館時よりは少ない来館数ではあるが、徐々にイベントも増やし、年間延べ数は3000名規模となったが、コロナ禍は予約対応としたため来館者が落ち込んだ。今年度は感染予防対策を第一に、町屋の建物のくつろぎ感を活かして、親子ともにリラックスできるよう取り組んだ。感染防止対策として、来場予約制により定員制限を設ける中で、同じ年代の親子さんが過ごせるよう年齢帯別の利用も実施。成長に合わせたあそびや絵本を提供し、規制のある中で充実した取組みができた。次年度は枳形商店街協力による「ハロウィンパレード」を復活させ、地域交流を深めながら進めていく計画である。

・令和3年度 来所者総数 2,329 (のべ人数)

保護者	計(人)	母親		父親		その他	
	1,035	986		38		11	
子ども	計(人)	0歳	1歳	2歳	3歳～ 就学前	小学生	その他
	1,294	313	467	333	181	0	0

・令和4年度 来所者総数 3,110 (のべ人数)

保護者	計(人)	母親		父親		その他	
	1,386	1266		151		9	
子ども	計(人)	0歳	1歳	2歳	3歳～ 就学前	小学生	その他
	1,724	512	409	387	416	0	0

6 会員状況

会員の高齢化および新規会員入会が伸びない問題については、全国の母子寡婦福祉団体共通の課題として、全母子協を中心に全国規模で有効な対策に向けての検討が続けられている。当団体においてもコロナ渦の健康問題等から令和4年度は寡婦会員の大幅な減少がみられた。会員獲得のための改善策として、次項の取り組みの推進を図った。

・会員数

年度	寡婦	母子	父子	学区数
2022 (令和3年度末)	292	264	7	30
	563			
年度	寡婦	母子	父子	学区数
2023 (令和4年度末)	240	271	7	28
	518			

7 新規会員獲得に向けた取り組み重点課題

1. 入会申込み時の年会費処理の簡略化

クレジットカード等に対応させる。現在、会費はゆうちょ振込に限定しているため、ネット時代にふさわしく利便性を上げるべく検討中（手数料等）。

2. 連合会ホームページの全面リニューアル。

業者発注済み。※令和5年5月頃完成予定。

3. WEBの活用／講座・セミナー・動画発信（YouTube等）／連合会として情報発信力を高める。例・ひとり親に役立つ動画系コンテンツを増やす。※ハイブリッド開催試行中。

4. 学習会・居場所作り。

ひとり親家庭対策としてもっとも実利的かつ有効な取組み。現在、西京区や山科区で学習会を開催（一部コロナ自粛中）。プログラミングの学校必修化の流れに併せて、大学の情報課系の元大学教授を講師に招いて、大人や子ども対象のプログラミング教室を実施した。

5. 交流・レクリエーション活動

最も敷居が低く、会員獲得につながりやすい。2022年度はコロナ渦で十分な取り組みができなかったが、「秋祭りフードパントリー」や民間企業との「ランドセル・プレゼント」など、事前・事後の入会働きかけを工夫する。

6. 法人事業活動に関するコンプライアンス強化

「コンプライアンス規程」「コンプライアンス・マニュアル」の職員への周知と研修を通じて、新規入会者を受け入れるための職員の意識向上、組織体制の強化を図った。

8 寄付金およびご招待イベント・支援事業

1. 食糧支援

①株式会社パソナ様

昨年の1月に食糧支援を企業共同で集めてしていただいて以降、食糧支援を中心に継続してご支援いただいた。

2. 寄付金

①京都洛西ロータリークラブ様

100,000円（チャリティーコンサート収益からのご寄付）

※寄付金はひとり親家庭支援に活用する。

②M・Y様（個人）

10,000円

子どもたちに、もっと本を読んでもらいたいというご希望があり、絵本を購入し、プレゼント企画（ゆめあす通信にて告知済）。

3. ご招待

①神戸楽友協会『ザ・協奏曲2』（神戸楽友協会）

◎日時 令和4年10月8日 14:00～

◎場所 京都コンサートホールアンサンブルホールムラタ

参加 76名（大人49名 子ども27名）

※詳細は上記記載

②京都ロータリークラブ創立40周年記念チャリティーコンサート

『未来へのハーモニー』

（京都洛西ロータリークラブ様）

◎日時 令和4年2月19日 14:00～

◎場所 京都コンサートホール大ホール

◎対象 小学1年生～高校3年生

（チャリティー収益の一部（10万円）をご寄付）

4. ご寄贈

①株式会社 日本ケイテム様

ランドセル寄贈 10個

◎寄贈式日時 令和4年3月12日（土）11:30～

◎場所 葵児童館遊戯室

◎対象 京都市内在住のひとり親家庭の新1年生10名